

地域における課題解決の仕組みづくりに関する小委員会における意見の整理

小委員会では、協働・連携に課題解決に向けた仕組みづくりの一環として、地域で多様な主体が持続的に活動できるために社会的な資源をつなげていくプラットフォームのあり方について、特に「機能」、「人材」、「場」、について意見交換を行った。

【機能に関する意見】

- ① 多様な主体から構成されるプラットフォーム（組織体）は、それぞれの課題に応じた、様々な組み合わせによるチームを編成する機能が求められるのではないかと。
- ② プラットフォームは、政策提言が出来るようなものが望ましい。
- ③ 課題によっては、行政が入らなくても良い場合もあるが、大きな課題に対しては、行政が入ったほうが良い場合もあるなど、課題に応じた行政の介入が必要。
- ④ 目指すべき社会のイメージの図の補足説明として、プラットフォームにより課題に応じて適切なチームが形成され、行政がそのコーディネートを中心的に担うことを表してはどうか。
- ⑤ また、今後求められる行政職員像として、公的サービスを提供する役割だけでなく、様々な地域資源や主体をつなぎ、コーディネートする役割がより必要となってくるのではないかと。

【人材に関する意見】

- ⑥ 地域では人材不足であり、次世代につなげるための人材発掘が求められており、それには、行政の持つ信頼性が求められる。
- ⑦ 社会の課題解決の取組と資金援助をつなげる、確立された職種としてのプログラムオフィサーと呼ばれる人材（事業をコーディネートする人）が求められるのではないかと。
- ⑧ 地域のコーディネーターは、専門的なスキル以外に、まず地域のことを良く知っている人材であることが必要である。
- ⑨ リーダーづくりには、様々なイベント等の機会をとらえて積極的に発掘する必要がある。
- ⑩ コーディネートする人材やリーダー以外に、場を提供する人材も重要ではないかと。

【場に関する意見】

- ⑪ 特段の目的が無くても、不特定多数が立ち寄る場が必要で、交流することが、まず最初のきっかけづくりとなるのではないか。
- ⑫ 独立した場所が確保できないと活動が活性化しない。常設の場ができれば可能性が広がるのではないか。
- ⑬ 政令指定都市である川崎市における協働・連携を推進する場（拠点）については、全市的レベル、区域レベル、地域レベルの3つの階層による整理が必要ではないか。
- ⑭ 区域レベルでは、既存の区民活動コーナーの機能強化が必要で、特に相談機能の強化が求められるのではないか。
- ⑮ その管理運営主体としては、専門性を持った団体が責任を持って窓口を運営する組織に委託することなどが考えられ、そこに一定の対価を払って地域のことを良く知っているコーディネーターを配置すると良いのではないか。
- ⑯ 地域レベルでは、こども文化センターやいこいの家など既存施設の有効活用や利用促進のほかに、最初のきっかけとしてコミュニティカフェの活用も有用ではないか。